

私のライフステージ



小国町立病院 放射線科

伊藤真理

仕事編

1 Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

A 中学生の時に観たTVドラマで、女性外科医が赤いスポーツカーで出勤し、白衣で颯爽と歩く姿に憧れるようになりました。しかし、外科医になるには到底学力が足りず断念。白衣を着る職業の薬剤師、診療放射線技師、理学療法士の中で、自分の学力と家庭のお財布事情にマッチしたのが診療放射線技師でした（笑）。「ラジエーションハウスを観て診療放射線技師に憧れる」とはぜんぜん違う不純な動機で、診療放射線技師の仕事すら知らないままに技師学校へ入学し、物理が苦手な私がその後、地獄のような日々を過ごすことになるのは言うまでもありません。そして、赤いスポーツカーには未だに乗れていません。

2 Q やりがいを感じるとき

A 前の職場を退職する時、救急科の先生からかけていた言葉で、それまで自分のやってきた仕事に対する姿勢は間違ってなかったんだと、初めて大きなやりがいを感じることができました。日々の業務の中では、患者さんからの何気ない一言に一喜一憂しますし、どんな場面でも「頼りになるね！」のフレーズをいただいた時にやりがいを感じ、モチベーションのバロメーターが上がります。

3 Q 私の職場遍歴

A 県立病院で働きたかったので、新卒で募集がない→ならば募集出るまでパートで繋ごうと決意し、産代要員として県立病院で4ヶ月勤務しました。

次は精神科の病院で1ヶ月間の引き継ぎ＆研修後ワンオペ勤務でいろんな経験をしました。ポータブル撮影で鉄格子のある部屋にも行きましたし、自動現像機の掃除も1人でできるようになりました。病院から脱走した患者さんを捜索しにも行きました。ひとり職場でしたので、他職種の人との関わり方や、個人病院ならではの利益追求の雰囲気を学ぶことができました。

大学を卒業して2年経ち、ようやく県立病院職員の採用試験があり合格しました。パートで勤務経験のある病院に配属され、7年間勤務しました。その間に結婚と出産し、一軒家のマイホームを建て始めると同時に中央病院への異動となりました。

それから9年間、家庭を顧みずがむしゃらに働きました。その間に乳がんに罹患し手術、化学療法、そして離婚。7年前に片道65km通勤していた県立病院を退職し、今は片道24kmの町立病院でのんびり（??）働いてます。

4 Q 学会・研究会参加

A 学会は自分のやっていることが間違ってないんだと確認できる場でもあります。同じ方向をむいている、同じ熱量の仲間たちと出会うことができます。発表をしたり聴いたりが目的かもしれませんのが、私はそれ以上に人脈を広げるために参加していました。たくさんの仲間と出会うことで、世界が広がったと思っています。